京都CF information

もうひとつの京都CF！がここにあります。
京都CF！スタッフブログ

「京都CF！編集長の無責任、町案内」「nao´s 京都牧遊記」など、京都CF！のスタッフが京都の街を綴ります。スタッフが街で見つけてきたオモロイもん、誌面では紹介できなかった取材の裏話や取材の現場をなどを、日々の奮闘ぶりと共に垣間見ることのできるのがこのブログ。スタッフブログへのアクセスは、下記の京都CF！ホームページからどうぞ。

http://www.kyotocf.com/

今月のオレが甘かった

イカのおすしが、子供を救う!?

イカ「知らない人についてイカない」、の「他人の車にのらない」、お「大声を出す」、す「すぐ逃げる」、し「何かあったらすぐしらせる」で、イカのおすしなわけです。ちなみに防犯ソングとしてCDも発売されているとか…

頭上から降り注ぐ(わけない)イカのおすしにご注意を…。

例のごとく、日がな一日街を徘徊するオレ甘探検隊が発見したのは、道路に突如現れた看板「イカのおすし」。とはいうものの、辺りを見回しても寿司屋なんてありゃしない。ところがその隣には「↑注意」と標されているではないか！　むぅ、もしや「頭上からイカのおすしが降ってくるので注意」とか…。こりゃさっそく周辺をリサーチせねば、なんて考えるまでもなく答えは警視庁が考案した防犯標語です、ハイ…。あぁ、最近ちょっとネタ薄なんじゃねえの？ オレ甘隊員の奮闘、祈る。

■西京区某所にて

Kyoto Car-Moratorium
～京都人のクルマ知らず～

「祇園囃子」と「ドゥエンデ」

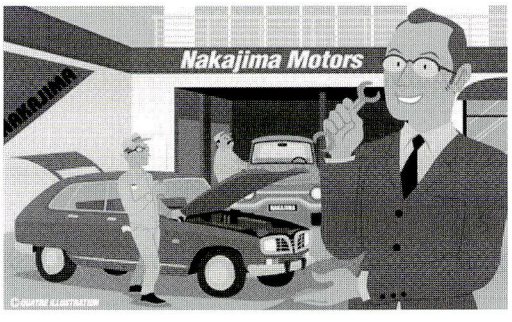
6th Lap

今年も「祇園囃子」の季節になった。祭りの音が人々を魅了する。そう、音が人間の心情に果たす役割は大きい。

フラメンコ・ダンサーは「ドゥエンデ」という瞬間を迎えることがあるという。入魂の演奏とダンスを披露するうちに舞台と客席が一体となり、あるとき「魔物に乗り移られた」としか表現できない一瞬が訪れる。それが「ドゥエンデ」だ。

レーシング・ドライバーもスタートの興奮状態から、火花が飛ぶようなテール・トゥ・ノーズのバトルを繰り返すあるとき「魔物に乗り移られた」瞬間が訪れるという。彼らを「ドゥエンデ」に導くのは、車の「エキゾースト・ノート（排気音）」だ。レーシング・エンジン・チューナーのコンマ数ミクロの調整で最高の状態を引き出されたエンジンをフルスロットル（全開）にした時の排気音は気絶するほど官能的である。市販車は耐久性や排気ガス規制のためデチューンされているから、体感できることは少ないが、フェラーリなど欧州の高級車を見かけたなら、窓を開けてエンジン音を聞いてみて欲しい。

「エキゾースト・ノート」。「ノート」とは「祇園囃子」と同じく、音階である。祇園祭のお囃子とエンジン音。官能的という意味ではどちらも同じだ。正しく、そして品良く心を揺り動かす音は、きっとあなたの車でも意識一つで耳に入ると思う。その音は、下世話な、ただ音が大きいだけのマフラーを装着した車とは一線を画しているはずだ。

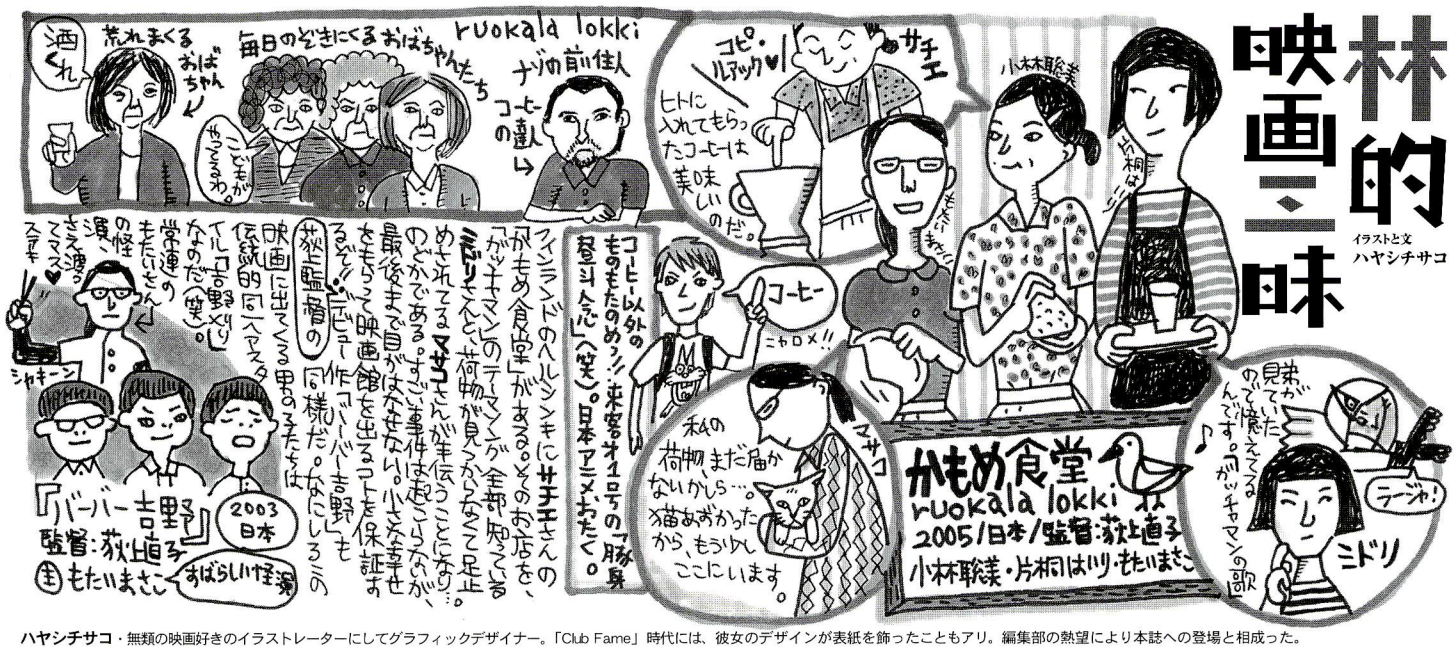


中島　崇（なかじま・たかし）

'68年生。自称「車選びの達人」。創業昭和38年、北区は紫野の自動車屋・(株) 中島商会の二代目社長にして「安くていい車」を探すスペシャリスト。かつて自動車オークションの取引で2000万円をドブに捨て、大失敗の連続から学んだノウハウをまとめた無料小冊子「その車に手を出すな！」も好評。中島流「車道家元」を目指す京都人。

林的映画三昧

イラストと文　ハヤシチサコ



ハヤシチサコ・無類の映画好きのイラストレーターにしてグラフィックデザイナー。「Club Fame」時代には、彼女のデザインが表紙を飾ったこともアリ。編集部の熱望により本誌への登場と相成った。